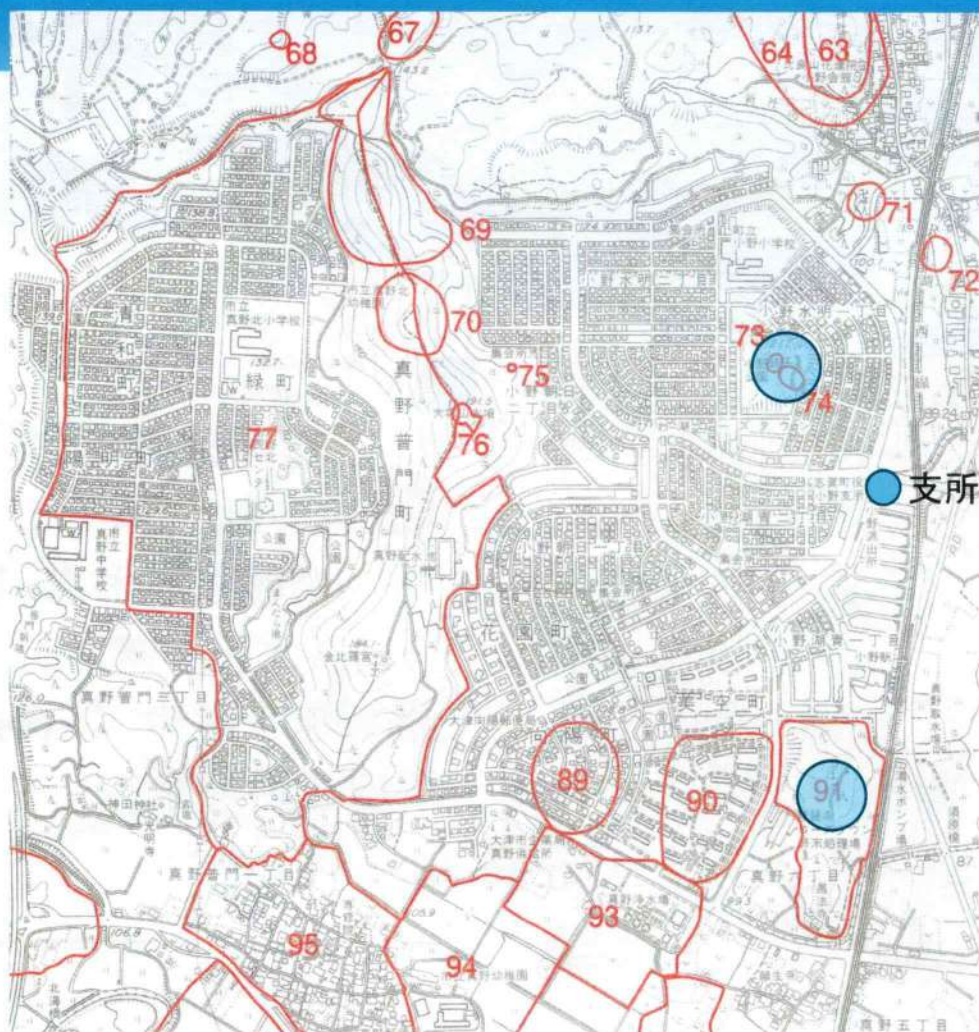


歴史ウォーキング

—小野の古墳を訪ねて パート2—

大津市文化財保護課
西中 久典





百石山遺跡（奈良県橿原市）



テーマ1 遺跡が語る歴史文化

大津市内に数多くある先史時代から古代にかけての遺跡は、大津市の成り立ちを物語っています。旧石器時代の真野遺跡、縄文時代の遺跡群遺跡は、縄文で生活した人々の暮らしを私たちに伝えてくれます。弥生時代になると、高砂などに集落がつかれるようになり、古墳時代には、皇子山古墳をはじめ、野洲川古墳、新石山古墳群など、いくつもの古墳が築造されました。また、渡来人とのかかわりの深いニニギヤ古墳跡や大津宮跡も発見されています。7世紀には大津天皇が大津宮に遷都し、宮内などの機能が整いました。奈良・平安時代には藤原氏が近江国府が置かれ、律令国家の拠点として繁栄しています。



一志賀遺跡出土の銅製神具（奈良県橿原市）

1 原始・古代の暮らし

●人々の生活のほりまわり — 旧石器時代
築城丘やササキで得られた旧石器が真野遺跡や豊後遺跡から出土しており、旧石器時代から大津市の人々が暮らしていました。

●集落の形成 — 貝塚・墓場、縄文時代
石山貝塚や豊後遺跡は、日本最大規模の淡水産貝塚です。豊後遺跡や内川で獲れる魚介類のほか、土器や土器、木の葉なども数多く出土しており、人々の暮らしを支えていたことがわかります。また、豊後遺跡では、縄文人の土器が数多く発見されました。

●新しい文化 — 稲作・銅鏡・方形銅鏡、弥生時代
弥生時代には稲作が伝わり、高砂遺跡では石包丁が出土しています。また、弥生時代の銅器である方形銅鏡が旧日本で最初に見つかったのも高砂遺跡です。一志賀遺跡からはおぼろぎに似た



豊前野山古墳群（福岡県）



真野山遺跡出土の銅製神具（奈良県橿原市）

響を与えました。古代三大鏡のひとつに数えられる神鏡は渡来人の技術を使ってつくられたものとされています。大津宮と関わり深い穴太遺跡や豊後遺跡などの遺跡にも渡来人の技術が使われています。また、渡来人は、仏教の興隆にも深く関わっています。延暦寺を創った最澄や山崎の僧侶は渡来人の子孫です。



内志賀遺跡出土の銅製神具（奈良県橿原市）

た銅鏡が出土しました。この時期の遺跡からは近江の特産物つとまだけでなく、北陸や山陽、東海地方の各地の土器も発見され、広い地域での交流があったことがわかります。

●いるいるな古墳 — 古墳時代
古墳時代（中期）には、和歌山県大塚山古墳に代表されるように、埋葬場所を望む丘陵地に石室の形をした古墳が築かれました。真野古墳では、鉄製の武器や銅製鏡などが出土しています。古墳時代後期には新羅風が築かれるようになり、穴太古墳群など渡来人系の特徴を持った古墳も現れます。

2 渡来人の足跡

●渡来人の集落
古墳時代には、朝鮮半島や中国大陸から多くの人々が渡来し、近所から藤原川沿いで暮らしていました。穴太遺跡や豊後遺跡では渡来人の技術で作られた土器やオンドル状遺跡などが残っています。渡来人の集落があったと考えられています。

●稲作と神話
渡来人たちは、近所から稲作技術で多くの古墳を築造しました。穴太野原古墳群や穴太古墳群などは、天井がドーム状の穴太石室で、稲作との関係性が窺われます。石室内には土器や銅製鏡などの祭具が出土されました。一方、野洲川古墳群の春日山古墳群などの石室は天竺の平らな穴太石室で、鉄刀などの武器や銅製鏡が出土することから、在地の集落のものと考えられています。古墳時代の人々が地域を分けて暮らしていたことがわかります。

●渡来文化の影響
古墳時代後期に伝来した渡来文化は後の時代にも影響



大塚山古墳出土の土器（奈良県橿原市）



穴太遺跡出土のオンドル状遺跡（奈良県橿原市）

3 大津宮と近江国府

●国家作りの危機
激動する東アジア情勢もさき、大津宮の建設は「大津宮造」もとも、天智天皇8年（669）に近江に都を移しました。わずか5年の間で、近江の都の建設、大津宮の建設に大津の民衆が力を注ぎました。

●近江大津宮と古代寺社・生霊遺跡
遷都の翌年、中大兄皇子は即位し、天智天皇になります。藤原遺跡の発掘調査で巨大な宮内府の門と廊下などが発見され、大津宮の所在地が明らかになりました。大津宮の時代、藤原宮内府や神宮、穴太遺跡、宮内府前寺社跡など多くの遺跡が築かれ、仏教文化が花開きました。また、藤原宮内府の山ノ神遺跡では藤原氏が大いに生かされた遺跡跡に支えられ、復興も進められました。

●近江国府の位置
奈良時代、藤原宮内に近江国府が置かれました。その所在地は1km四方で、西側には若狭神社、藤原大社などの神社が置かれました。城内で多くの人々が暮らしていたことが窺われます。

●近江国府と開港遺跡
近江国府の南西中央には近江国府が置かれていました。これは中央の儀衛庁にあたる施設です。平城宮、平安宮に似た構造をしており、律令国家を築き進める一大拠点でした。周辺には、国中に神宮を建て、神多彩と考えられる宮内府、藤原宮内に指定される藤原宮、大津宮跡などが残ります。また、天智天皇8年（759）には藤原氏が藤原宮を築き、藤原氏が遷都しました。



大津宮跡出土の土器（奈良県橿原市）



山ノ神遺跡出土の銅製神具（奈良県橿原市）

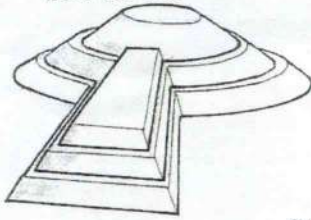


近江国府跡出土の銅製神具（奈良県橿原市）



●古墳のかたち

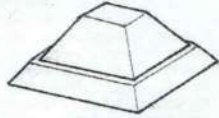
前方後円墳



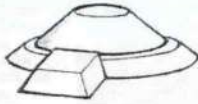
円墳



方墳



帆立貝式古墳



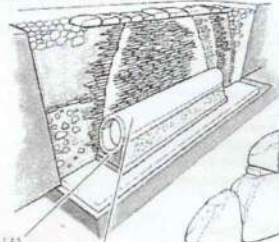
●古墳の構造

後円部

墳丘

前方部

竪穴式石室



粘土床

割竹形木棺

埴輪

ふき石

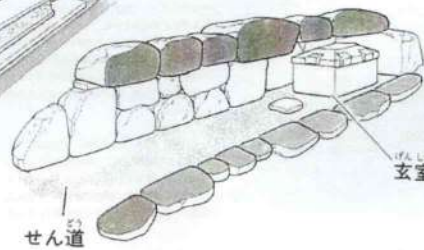
つくりだし

中島

周濠

外堤

横穴式石室

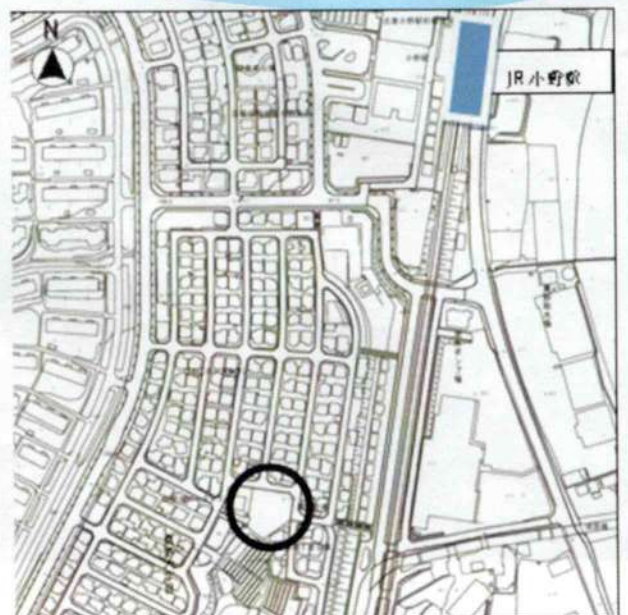


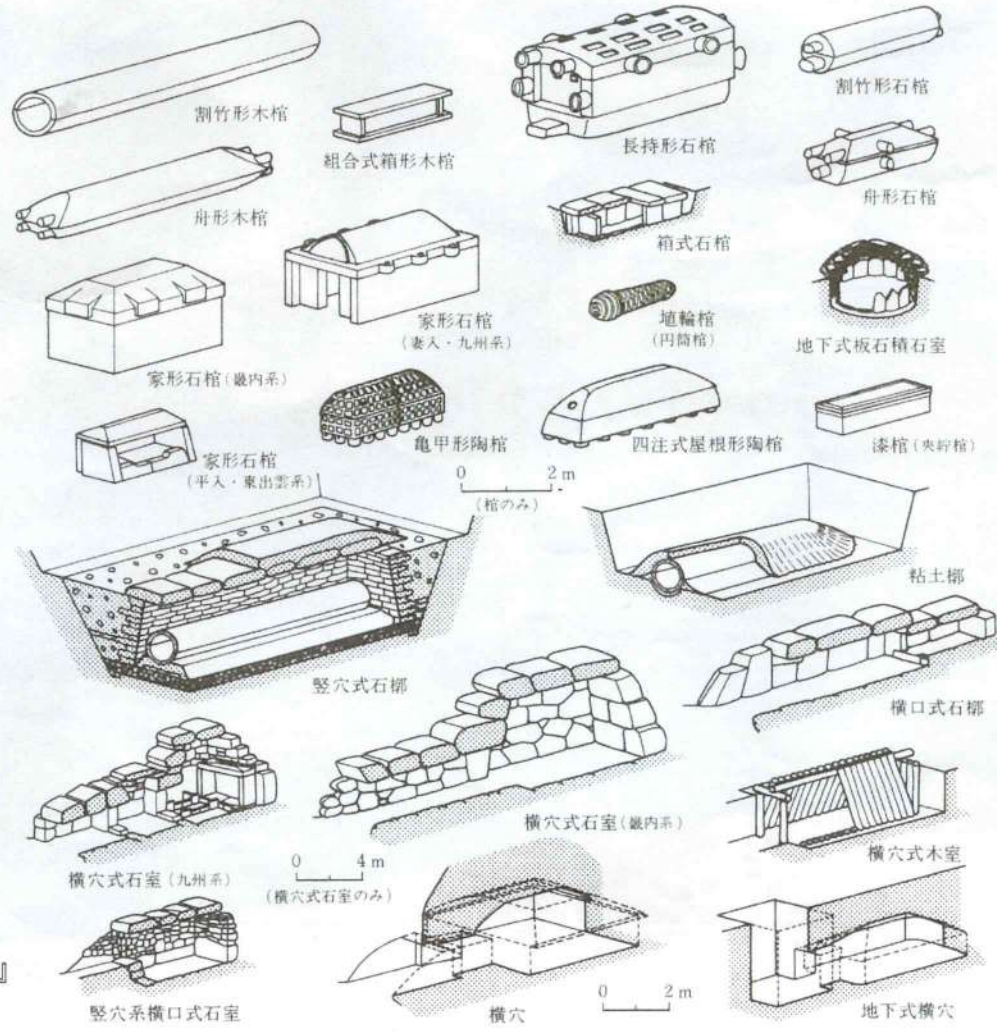
せん道

古墳のいろいろ

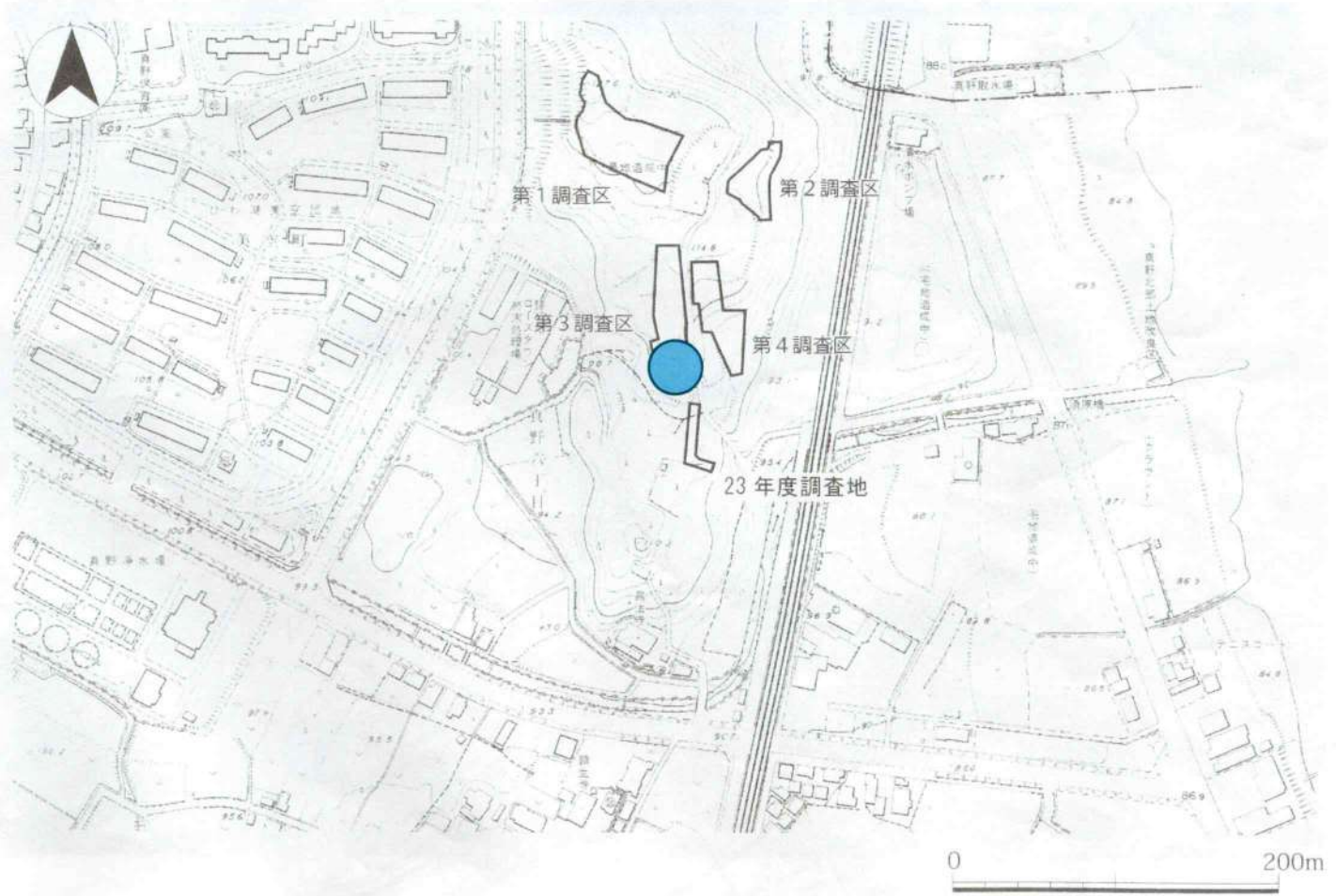
真野古墳

- * 時期 : 5世紀前葉
- * 墳形 : 円墳 (直径20m)
- * 主体部 : 木棺直葬
(割竹形木棺)
- * 出土遺物 : 埴製舟形容器
埴製槌形容器
(滋賀県指定文化財)





和田晴吾2014
『古墳時代の葬送と他界観』
5頁 図1より



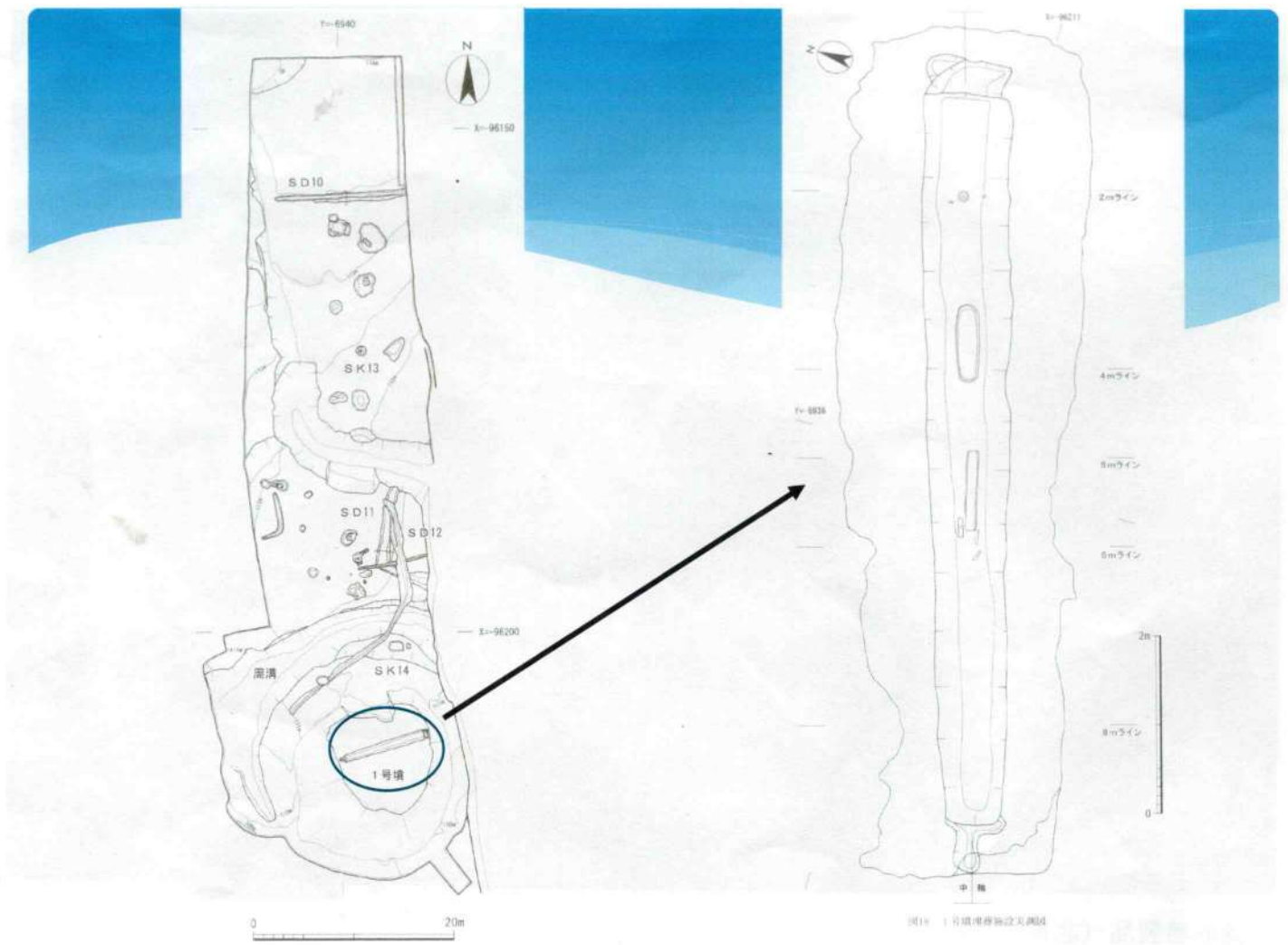
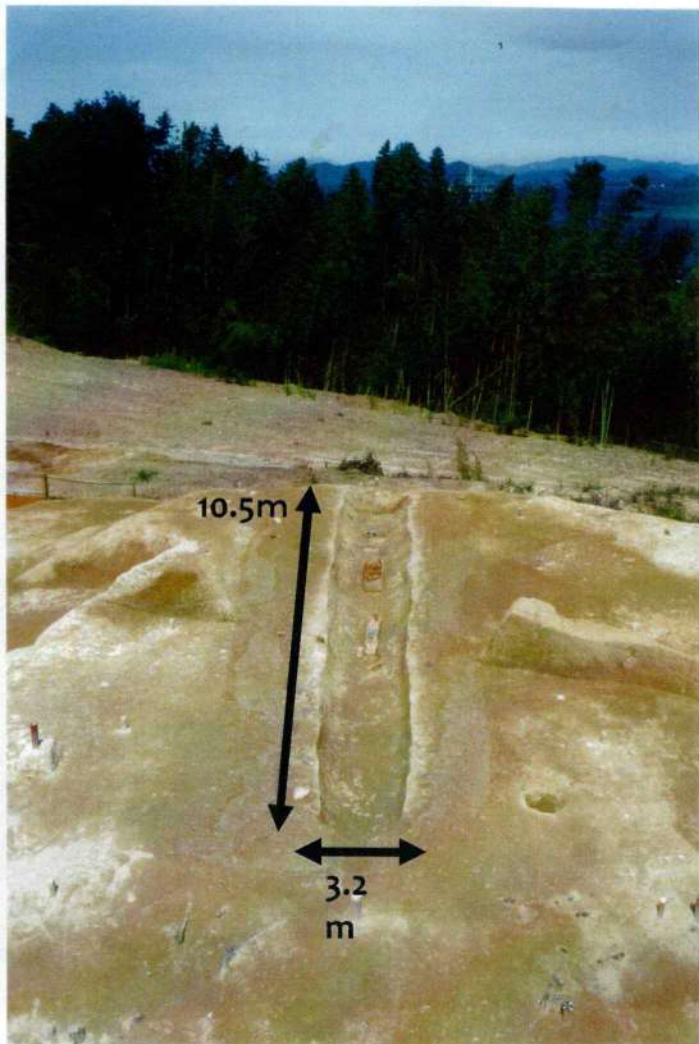


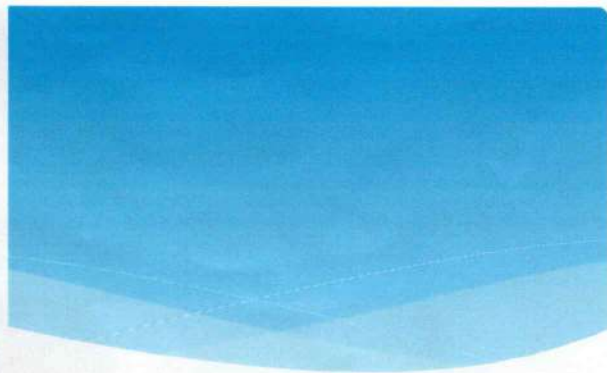
図14 1号墳埋葬施設平面図



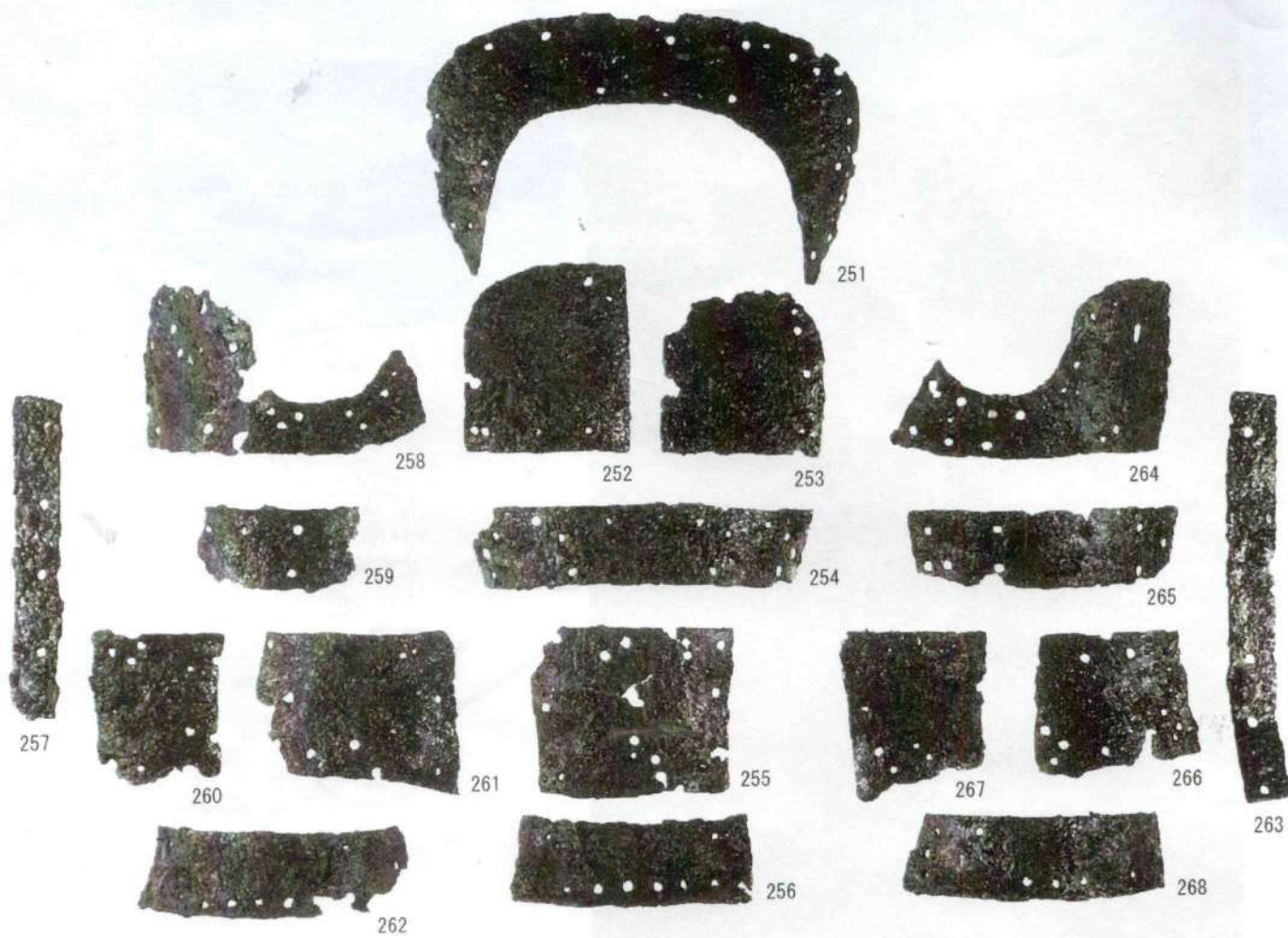
埋葬施設全景（東から）



埋葬施設全景（西から）



舟形埴製品（南から）

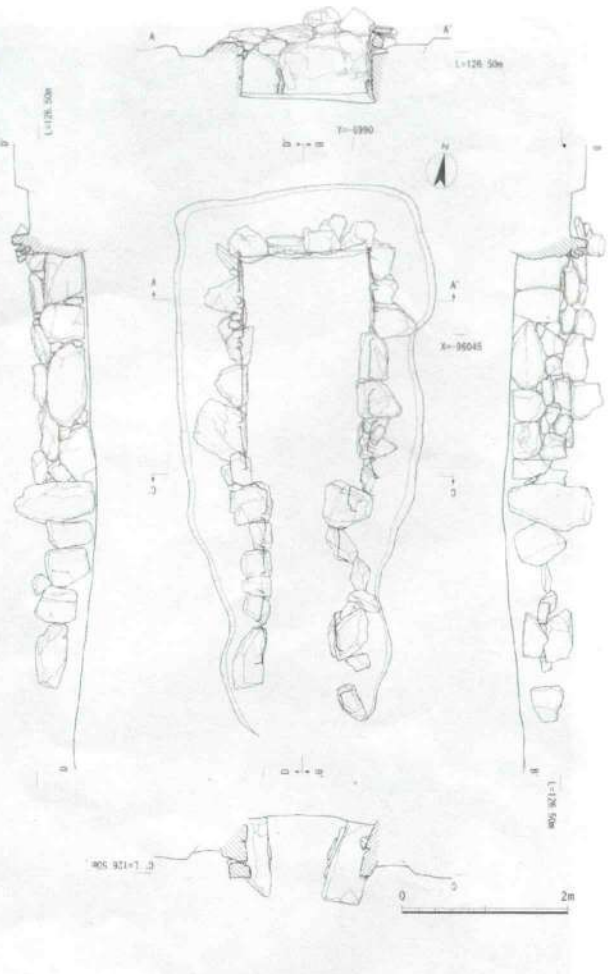
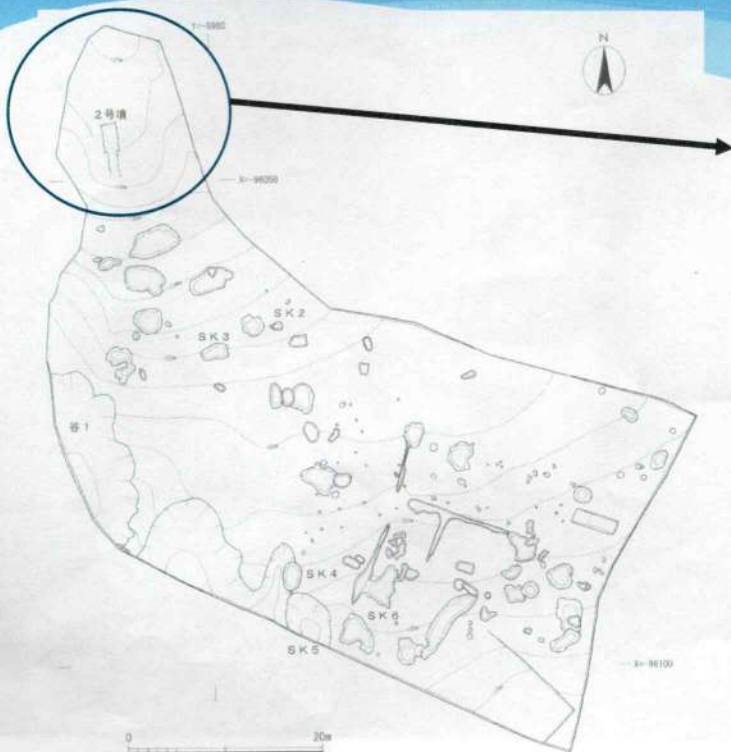


鏡・玉類出土状況（東から）



桶形埴製品（北東から）

真野2号墳
円墳(径10m前後)
横穴式石室





2号墳（南から）

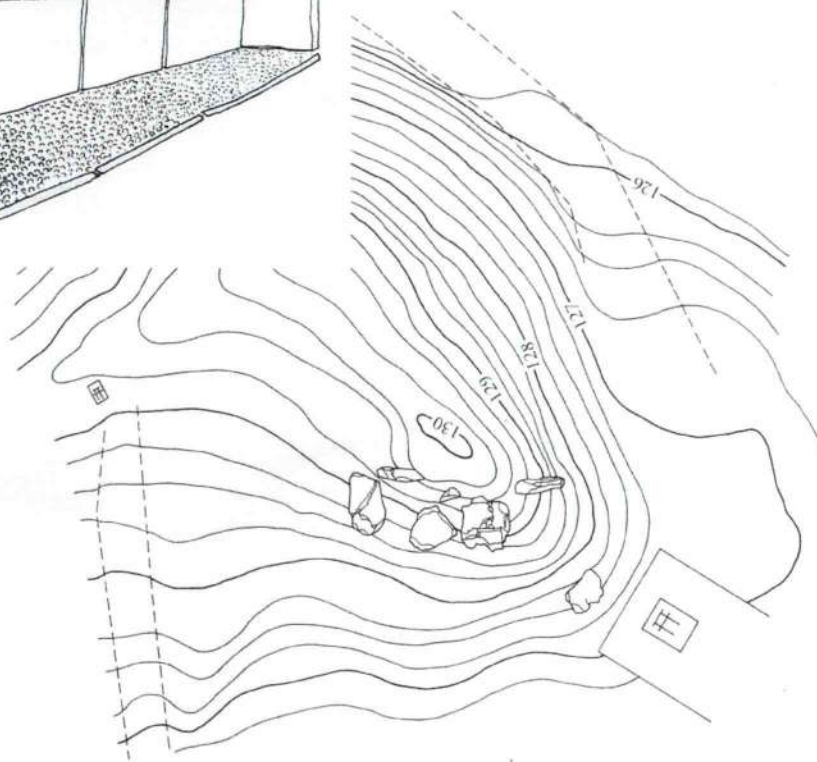
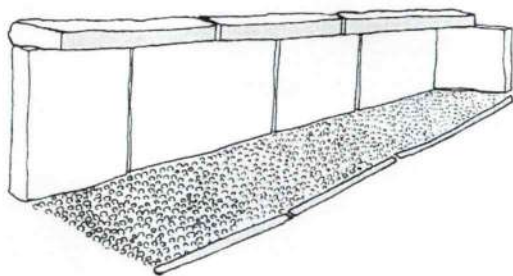
唐白山古墳

- * 円墳 7世紀中頃？
- * 横穴式石室
- * 小野妹子の墓であるとの伝承あり。
- * (大阪府太子町にも小野妹子墓と伝えられている塚がある。)

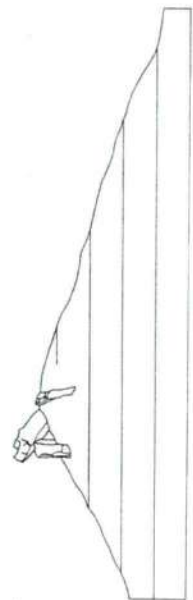




2号墳遺物出土状況（南から）



— 130.00m

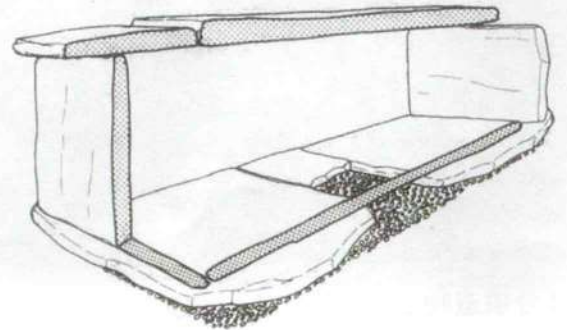


小野毛人墓誌

- * 慶長18(1613)年に、現在の京都市左京区上高野で掘り出されたもの。
- * (表)飛鳥浄御原宮治天下天皇 御朝任太政官兼刑部大卿位大錦上
- * (裏)小野毛人朝臣之墓 营造歳次丁丑年十二月上旬即葬

丁丑年=677年

小野毛人=小野妹子の子



参考:志賀町1994『遣隋使 小野妹子』

小野周辺の古墳時代

- * 前期:和邇大塚山古墳
- * 中期:真野古墳
- * 後期:曼陀羅山古墳群(ゼニワラ古墳ほか)
- * 終末期:唐白山古墳

⇒ 比較的連綿と古墳が続いている。さらに周辺(北)には、不ヶ谷古墳群、道風神社古墳群、石神古墳群などが位置している。

ただ、集落の位置については、真野神田遺跡などで一部確認されているが、不明な部分が多い。

【今後の調査に期待】